

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	ながの けいこ 長野 恵子	所属・職名	健康福祉学部 社会福祉学科・教授
専門領域	臨床心理学、老年心理学	学位称号	教育学修士 1980 (昭55)
最終学歴	1983 (昭58) 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻 (博士課程) 単位取得満期退学		
資格・免許等	臨床心理士 (No.01282)		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	<p><学部> 心理学入門、高齢者臨床心理学、障害の理解、心理学実験Ⅰ、社会福祉学演習Ⅱ、卒業論文</p> <p><大学院Ⅰ> 臨床心理学特論、老年心理学特論、対人援助技術特論、臨床心理基礎実習、特別研究</p>		
教育方法の実践例	<p><教育方法の実践例></p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床心理基礎実習」：2006 (平18) 年4月～2011 (平23) 年3月。 障害児教室の実施を通じた大学院生の臨床実践学習。年6回障害児・者及びその保護者を対象としたグループにおいて臨床動作法の実践を行なうことにより、臨床技能の向上を図る。 「障害の理解」：2006(平18)年4月～2009年(平21)年3月。頸椎損傷後遺症による四肢麻痺の人に体験を話してもらい、質疑応答を通して学生の障害のある人に対する理解を深める。 「高齢者臨床心理学」：2006(平18)年4月～2009年(平21)年3月。高齢者への心理的ケアのあり方を理論的に学ぶことに加え、回想法(臨床心理士)、音楽療法(音楽療法士)の実践家を招き、高齢者施設における具体例を紹介することにより実践面での理解を深める。 「社会福祉学演習Ⅱ」：2006 (平18) 年4月～2007 (平19) 年3月。ビデオカメラシステムを用いた対人援助スキルの向上を目指した体験学習。演習室のビデオカメラシステムを用いて学生同士のグループでのセッションを観察、記録し、フィードバックを行い学生の自己覚知を促し、対人援助スキルの体験的学びを深める。 この取り組みは、平成18年度大学高度教育化推進補助事業の一環である。 高齢者との実体験に基づくコミュニケーション技能の学び 		
教材の開発	<p>健康福祉実践センターでの「チャレンジ幸齢セミナー」において、学生が回想法を用いて高齢者とグループワークを行なうことで、学生の他者理解 (異世代の理解) を深め、コミュニケーション能力を高める。</p>		
教育改善活動等	<p><教育改善活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 社会福祉学科におけるFD活動の推進 学科長として社会福祉学科内におけるFD活動を推進した。 2007 (平19) 年3月に学科FD研修会「対人援助技術教育におけるビデオ機器の活用」を企画。2008 (平20) 年3月に学科FD研修会「ゼミのあり方について」を企画し、初年時から4年までに至る少人数ゼミの教育目標・方法について学科の共通理解を図った。これらのFD活動を社会福祉学科FD活動報告書としてまとめた。 全学におけるハラスメントに関する研修を企画 (平成19年10月)。 研究科長として大学院におけるFD活動の組織的取り組みを推進した。 全学FD委員、教務部長としてシラバスの改善に取り組み、平成21年度から新シラバスを導入した。 教務部長として3つのポリシー策定のための組織作り、初年次教育の導入および全学共通教育へ向けてのカリキュラム改編、リメディアル教育の組織的実施の推進、高大連携事業の推進を行った。 		
職務上の実績に関する事項			

大学院研究科長	2006 (平 18) 年 4 月～2007 (平 19) 年 3 月		
健康福祉学部 社会福祉学科長	2007 (平 19) 年 4 月～2009 (平 21) 年 3 月		
教務部長	2009 (平 21) 年 4 月～現在まで		
臨床心理相談室長	2006 (平 18) 年 4 月～2007 (平 19) 年 3 月		
セクシュアルハラスメント相談員	2006 (平 18) 年 4 月～現在まで		
学生相談室運営委員	2006 (平 18) 年 4 月～現在まで		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項			
《 平成 1 8 年度～平成 2 2 年度 》			
著 書 ・ 学 術 論 文 等 の 名 称	単 著 ・ 共 著 の 別	発 行 所 ・ 発 表 雑 誌 等 又 は 発 表 学 会 等 の 名 称	発 行 又 は 発 表 の 年 月
<学術論文> 現代青年の友人関係と対人ストレスに関する研究	共著	西九州大学健康福祉学部紀 要 第 39 号	2009 (平 21) 年 3 月
大学生女子における親との付き合い方に関する一考察 —アイデンティティ尺度からの検討—	共著	西九州大学健康福祉学部紀 要 第 41 号	2011 (平 22) 年 3 月
<学会発表> 動作法におけるストレス軽減と認知的変化との関係 —短期大学生へのストレスマネジメント教育の実践を通 して—	共同	2006InternationalCongressof PsychologicalRehabilitationin Soul	2006(平 18)年 9 月
研究助成等	西九州大学健康福祉教育研究助成 2009 (平 21) 年～2010 (平 22) 年		
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等			
2002 (平 14) 年～2011 (平 22)	福岡県教育委員会障害児就学指導委員会委員 :		
2003 (平 15) 年～現在まで	佐賀県社会福祉審議会委員 :		
2006 (平 18) 年～現在まで	九州大学大学院人間環境学府 附属発達臨床心理センター 研究員		
2006 (平 18) 年～現在まで	認知症介護研究・研修東京センター 客員上級研究員		
2009 (平 21) 年～現在まで	佐賀家庭裁判所 家事調停委員		
<所属学会>			
日本心理臨床学会 日本心理学会) 日本特殊教育学会 日本教育心理学会			
日本リハビリテーション心理学会・評議員 (2000 (平 12) 年～現在まで)			
日本社会福祉学会 日本基督教社会福祉学会 日本臨床動作学会 日本ストレスマネジメント学会			
九州臨床心理学会			